

UD

さがみはら

Vol. **1**
2024 July

ユニバーサルデザインでインクルーシブ&ダイバーシティなまちづくり



▲星が丘公民館の多目的トイレ



▲ソレイユさがみのトイレ



▲「おとなり」のトイレ



◀星が丘公民館の男女トイレ
▼誰でも使える「Dトイレ」



●MUD でブランドづくり ●地域づくりから ユニバーサルデザインが見える

UD (ユニバーサルデザイン) とは…

「みんなが暮らしやすくなるための工夫」のことです。

この通信は、市民協働提案制度事業「ユニバーサルデザイン普及・啓発事業」として地域包括ケア推進課とNPO 法人ここずっとが発行するものです。

本紙発行に先立ち、本年4月に事業者・市民のみなさまにUDに関する意識調査を実施、ご協力いただき、ありがとうございました。結果は本紙編集に活かしてまいります。



ここ?UD そこ!

NISO 株式会社日相印刷

あらい けいた
荒井 慶太 さん

株式会社日相印刷 / 日相出版 取締役
相模原市印刷広告協同組合 副理事長
全日本印刷工業組合連合会令和4・5年度 CSR 推進委員

〒252-0328 相模原市南区麻溝台 8-2-7
TEL : 042-748-6020 FAX : 042-748-6126

メディア・ユニバーサルデザイン

MUDで ブランドづくり

MUD(Media Universal Design)とは、さまざまな情報が高齢者・障がい者・色覚障がい者、外国人などにも、見やすく、伝わりやすくするための配慮手法。10年以上前からMUDの印刷物をデザイン、作成、発行しており、また市民協働事業の先輩でもある日相印刷の荒井さんにお話を聞きにいきました。

●「SDGs」の切り口から「MUD」展開へ

特に民間で価格を重視してネット印刷を利用するのは時代の流れ。だけど、地域の印刷会社がまちのために何ができるか。「コトづくり」を一緒にしながら、官公需的なことは地域の印刷会社を使う仕組みにしていきたいと考えている。一社ではできないことを組合で取り組んでいる。

活動を通して、より良い地域づくりには地元企業の活用が大切なことを知ってもらう努力を常にしなければならない。そのときにキーワードとなったのが「SDGs」。

まちの小規模な印刷会社がエコ等の「SDGs」に取り組むには設備投資等の課題も多いが、「MUD」による「誰にとっても優しい情報発信」は、まさに「SDGs」であり、印刷会社の得意分野である。以前は「MUD」という言葉だけで発信してきたが、認知度が上がらず、「SDGs」の推進が盛んになって、セミナー等は名前を「MUD」から「SDGs」の切り口に変えたら、人が来るようになった(笑)

全印工連とNPO法人MUD協会の主催で去年初めてMUDを広めるために「伝えるためのユニバーサルデザインフェア」を東京都立産業貿易センターで3日間実施。テレビや新聞の取材が来て、全国ネットでも取り上げてもらった。これを見て「これからはこれだ」と確信を持った。メディアに取り上げてもらえたら客観性も増し、行政にも政治ももっと興味を持ってもらえる。そして、市と連携した

MUDによる「みんなにやさしい情報発信」の仕組みづくりが可能となるはず。今までのところ、MUDが付加価値となり経済効果につながる案件はほぼないが、ブランディングとして取り組んでいる。例えば、中央区のシールブックは



▲写真は荒井さん
背後に時代の展示品となった
和文タイプライター

MUDで作成した
中央区のシールブック▶



MUDで作ってるんです。だけど、それを知らせるのは難しい。市の担当者には見え方のシミュレートを掲載したレポートを提出して「(見えにくい人への)配慮をしています」ということを知らせている。また、他の制作物には小さく「MUDの視点を取り入れています」と入れたりもしている。相模女子大の学生ボランティアが作った大船渡市へ寄贈する紙芝居の支援を依頼された時には「MUDで・デザイン」することを条件で引き受けた。MUDのレクチャー後、学生はスマホで色のシミュレーターを活用して全データを見事に完成させた。まだほとんど知られていないけど、こういった活動を積み重ねていくしかないんですよ。

●社会貢献型 YouTube チャンネルへ

相模原市印刷広告協同組合では、チャンネル登録を条件に地域の方が欲しい動画を無料で作る、それで登録者1万人を目指す。ハードルは高いが、そういう活動をしていること自体がブランディング。6月1日に実施した「SDGsでつくる!みんなにやさしい広報誌・チラシ作成講習会」では、後日受講者のリクエストを動画にして公開する。今は情報に溢れていて、適切な情報の取り方がわからない人が多いので、組合がそのハブになればいい。「そこにいけば役に立つ情報が取れる」というところまでブランディングしなければいけない。

●まちの発見から変わっていく未来へ

子どもの頃から「こんなところにUDがある!」って「デザインの発見」を楽しく学べるゲームや教育プログラムにしていけると面白い。

UDを発見できるようになると足りないものにも気づけるようになる。そこから建築家が生まれるかもしれないし、まちのデザイナーが生まれるかもしれない。

印刷物やHPにMUDの視点を取り入れていたとしても、「見えづらさ」を感じていない人にはどこにその配慮があるのかは分かりにくく、そこにお金や時間を割くことを嫌がる人もいます。しかし、「誰にでも優しい=SDGs」と発想を転換することで、印刷業界の新たなブランディング、子どもたちへの教育、地域貢献へと繋がりが、MUDの普及の道が拓いていく様子を教えていただけました。

地域づくりから ユニバーサル デザインが見える

株式会社ファイブスター
『認知症対応型デイサービスおとなり』管理者
相武台団地商店会 会長

のせ ひかる
能勢 光 さん

〒252-0323
相模原市南区相武台団地 2-3-5-12 (相武台団地商店街内)
TEL : 046-205-4400 FAX : 046-205-4401
MAIL : otonari.5s@outlook.jp

相武台団地は、南区にある、約90棟のとても大きな団地です。高齢化が進んでいます。

認知症対応型デイサービス「おとなり」は、そのほぼ一番南に位置する商店街の一角、子どもたちが遊ぶ小さな広場に面しています。

「おとなり」の前にはベンチがひとつ。3年前の4月、施設がオープンしたときに置かれました。今のベンチは「おとなり」利用者が作った2代目です。昔と比べてすっかり数が減った団地の子どもたちがおしゃべりしたり、買い物帰りのお年寄りがひと休みしたり、広場に人が戻ってきました。

「おとなり」に入ると正面の壁一面に大きな時計、右側には時を知らせる柱時計。認知症になっても自分で時刻がわかることは大切です。時間が経つと感覚にずれが生じやすくなりますが、大きな時計が目に入って、時の数だけ音がすれば、時刻を気にする意識や、現在時刻の認識につながります。大きな時計は、大きな窓の外からものぞけます。広場で遊ぶ子どもたちも、時刻を確かめにやってきます。

「おとなり」は団地の古い一室を再生したのでトイレも狭いまま。認知機能が低下したとき、物の認知、識別にはコントラストが大切なので、壁の下のほうを黒く塗って、便器をわかりやすくしています。車椅子では使えませんが、商店街全体として考えれば、お向かいの多世代交流施設「ユソーレ相武台」に、みんなのトイレがあります。



▶写真の右側が能勢さん
後ろの大時計に
「おとなり」のロゴ

入り口にはなつかしい雰囲気の間と引き戸。段差があります。車椅子利用の希望者には、適した施設を紹介できるように、近くの施設とつながりを持っています。障壁になる点は予め情報発信することも大切です。できないこと、代わりになることをしっかりと伝えていきます。

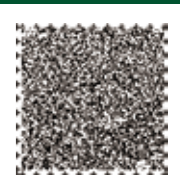
土間の段差の境目に貼られたテープ。色を変えてわかりやすくしています。認知症になると、バランス感覚が正常でも、足腰が丈夫でも、転びやすくなります。目の前の状況を認知する機能が低下するからです。こんな小さな工夫がユニバーサルデザインの基本です。

「おとなり」を利用されている方は定員の8名。耳が遠い人もいれば、大きな声を不快に思う人もいます。スタッフは話すときも「すべての人のための声の大きさ」「みんなにやさしい伝え方」を意識しています。

相武台団地商店会会長の能勢光さんが、この「おとなり」の管理者。町田市の「Dトイレプロジェクト」を広げるリーダーもしています。「Dトイレ」は、認知症の人が街でトイレに困るとい話から始まりました。英語で認知症の意味を持つ「dementia」の頭文字「D」を使っています。さらに「同伴(DOHAN)できる」「誰でも(DAREDEMO)入れる」「どこ(DOKO)にでもある」などの意味も込めました。特別な設備を備えるものではありません。街のお店や施設が「困られている方にトイレをお貸しする」をオレンジ色のマークで意思表示するのです。

能勢さんは、相武台でも町田でも、形式的にユニバーサルデザインに沿った街を作ろうとしてきたわけではありません。みんなのための地域づくりを考えたら、このような姿のユニバーサルデザインになりました。同じように「おとなり」という施設でも、利用者のことを考え続けたことがユニバーサルデザインにつながりました。

◀わざと段差をつけた踏み込み
誰でも座れるベンチ、大きな時計
外から室内が見られる窓と入り口





長寿命化改修にふさわしい 未来を見据えたリニューアル

2024.04.14 リニューアルオープンした星が丘公民館

◀ アスファルトを剥がしブロックと芝生の
星が丘公民館の駐車場

温暖化対策仕様の駐車場から館内に入るとさがみはら津久井産材の木の香りがいっぱいのリニューアルオープンしたばかりの星が丘公民館。

開館40年を数えて老朽化した公民館をリニューアルしようと改修検討委員会が始動したのは2020年7月。検討委員会は、自治会、地区社協、民児協、利用団体代表、公募市民と、日ごろからつながりのある地域住民によって構成され、40年前の開館当時の市民意識から未来を望んでの改修検討が始まりました。館内表示に誰にでもわかりやすいピクトグラムを活用することになったのも、検討委員会の話し合いから。ピクトグラムとは、ひと言でいえば絵文字のこと。先行でリニューアルされた麻溝公民館のトイレ表示を参考に、ドアいっぱいに描かれたピクトグラムは、誰にでも一目でトイレだと教えてくれます。（※表紙写真参照）「明瞭で分かりやすいです

ね」とお伝えすると、検討委員会では女性がピンク、男性がブルーでいいのかなど、色の選択も話題になったとのこと。利用する高齢者のオーソドックスな感覚からあまりにかけ離れすぎても違和感が先立つだろうからと、現在の色・スタイルになったそうです。「結果が変わり映えしなくても、議論が起きたことが大切なこと」と、検討委員会を振り返る館長代理の高橋さん。議論が起きる経緯そのものがUDへのアプローチです。

エコ駐車場になって、雨の日のぬかるみや、芝生の手入れなど、維持管理の手間は増えますが、そこからUDが根付いていく地域・未来の姿が見えてきそうです。



▲星が丘公民館ロビー

知っておきたい！
おたすけアプリ

音声コード Uni-Voice は 情報保障の基本アイテム！



Uni-Voice Blind



Uni-Voice Blind のアプリ
インストールQRコード



Uni-Voice



Uni-Voice のアプリ
インストールQRコード

本紙にはページごとに音声コードである Uni-Voice コードが付いています。ひとつのコードにおよそ800字分の文字情報が入り、スマホのアプリで読み取り、読み上げるものです。

スマホのアプリには、視覚に障がいのある方向けの **Uni-Voice Blind** と、一般の方向けの **Uni-Voice** の2種類があり、左のQRコードからそれぞれインストールできます。

読み取った情報は、20言語に翻訳できるほか、スマホに保存できるので、そのままメール等でほかの人と共有できます。情報に電話番号やURLがあれば、スマホ内でタップひとつで使えるので便利です。

また、アプリ内で所在地や指定した

場所の災害リスク情報を音声で取得でき、現在地周辺の避難場所を表示し、音声での誘導も可。もちろん普通の道案内もできるので、障がいの有無を越えてオススメできます。

音声コードを作成するソフト (JAVIS APPLI) は **特定非営利活動法人日本視覚障がい情報普及支援協会 (JAVIS)** が提供。word のアド・オン機能として手軽に運用でき、紙面に音声コードを掲載する際は、紙端に位置を知らせる「切り欠き」をします。本紙では、紙面の表裏に音声コードがあることを知らせるためふたつの「切り欠き」を行っています。

※NPO法人ここずっとは音声コード作成のお手伝いをします。ご希望の方はお問合せください。

●みなさまからのご意見や情報提供を募ります。投稿先⇒e-mail:udsagamihara@cocozutto.jp

UDさがみはら vol.1 ■ 2024年7月25日発行
相模原市地域包括ケア推進課・NPO 法人ここずっと



〒252-0303 相模原市南区相模大野 9-6-18
☎042-851-5646 FAX042-742-0447
http://www.cocozutto.jp/



■『UDさがみはら』は令和6年度市民協働事業「UD普及・啓発事業」として発行するものです。

▼ SNS も CHECK!

